

公立大学法人島根県立大学の平成25年度に係る業務実績に関する評価のポイント

1. 5段階評価を行う項目

(1) 特に顕著な成果が見られた事項…「評点5」の項目

項 目	概 要
① 広報誌やホームページを通じた効果的な情報発信 (No. 87-3、戦略的な広報の実施)	法人広報誌「オロリン」を創刊し、県内外に大学情報を発信した。
② 大学を支援する組織との意見交換や交流を通じた地域との連携強化 (No. 88、大学支援組織との連携強化)	島根県立大学支援協議会の構成員となっている自治体から副申文書をもらうなど、大学COC事業への支援を得た。
③ 夏季企業訪問合宿や就職活動学生激励会などの開催 (No. 88、大学支援組織との連携強化)	夏季企業訪問合宿 (県大OB等を訪問) では、新たに中部や山陽をコースとして新設するなど、学生の幅広いニーズに対応した。
④ 防犯意識の向上のための研修や防犯関係機関と連携した意見交換会の実施 (No. 91-2、安全管理対策の推進)	ネットワーク犯罪等防止講習会を新規に開催した。また、地域と連携して防犯協議を行い、防犯カメラ・外灯・人感センサー廊下ライトを整備するなど迅速に不審者対策を実施した。

(2) 平成25年度の「今後の取組みが期待される事項」の取組状況 評点3以下

項 目	取 組 状 況
① 情報セキュリティポリシー及び情報格付けに基づいた文書管理 (No. 92-2)	簡潔で実効性の高い情報セキュリティポリシー原案を作成したが、運用までには至らなかった。

(3) 法人自己評価を変更した項目とその理由

項 目	概 要
① 看護実践研究支援センター（仮称）の設置（No. 1、社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり） （評点：法人4→事務局5）	「しまね看護交流センター」を出雲キャンパスに設置し、地域からの相談窓口の一本化や卒業生の研究支援制度の周知に努めた。
② 大学の最新情報の提供（No. 86、情報公開の推進） （評点：法人5→事務局4）	毎月1回学長定例記者会見を実施しているが、以前からの取組みであり、顕著な成果とまではいえない。なお、広報誌「オロリン」の創刊については、No. 87-3の項目で別途評価することとする。

(4) 平成24年度実績に係る今後の取組が期待される事項

評点3以下の項目（意図した実績が達成されなかった事項）

項 目	概 要
① 情報セキュリティポリシー及び情報格付けに基づいた文書管理 （H24:No. 181-1、H25:No. 92-2）	基本規程・実施規程及び個別具体的なガイドライン、手順まで網羅した、簡潔で実効性の高い情報セキュリティポリシー原案を作成した。
② 情報セキュリティポリシー講習 （H25:No. 181-2、H25:項目なし）	4月に新入生全員と新任教員向けに情報セキュリティに関して理解しておくべき知識に関する講習を実施した。

(5) 中期目標各項目別の平均値

<中期目標各項目別の状況>…年度計画各項目を5段階で評定し、その平均値で評価

中期目標の大項目	評点平均値				評 定
	大学		事務局		
①社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり	4.00	A	4.50	AA	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
②自主的、自律的な組織・運営体制の確立	4.00	A	4.00	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
③評価制度の構築及び情報公開の推進	4.14	A	4.00	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
④その他業務運営に関する重要項目	4.14	A	4.14	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。

2. 5段階評価を行わず特筆すべき点又は遅れている点を示す項目

大学の教育研究等の質の向上に対する評価の概要

大学の3つの基本的な目標（①学ぶ意欲を大切にし、高めていく大学、②地域に根ざし、地域に貢献する大学、③北東アジアの知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学）について評価を実施

□特筆すべき点（注目される点）

項目	計画の進捗状況及び成果
<p>学ぶ意欲を大切にし、高めていく大学</p>	<p>◇栄養士資格取得率100%、保育士資格・幼稚園教諭免許併有率100%を達成した。（松江キャンパス）</p> <p>◇障がいのある学生の支援充実を図るため「島根県立大学短期大学部松江キャンパス障がい学生支援規程」を新たに整備するとともに、松江キャンパス全職員を対象とした障がいのある学生支援のための研修を実施した。（No.34-2）</p> <p>◇平成24年度に新たに留学協定を締結したセントラルワシントン大学に3名、ミネソタ州立モアヘッド校へ2名の学生を長期派遣した。（浜田キャンパス）（No.62-1）</p> <p>◇健康栄養学科では、地産地消の推進、島根県産品普及のため、関連団体と連携して商品開発に取り組んだ。（No.48-3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東出雲の柿農家と共同で西条柿から作った熟柿ピューレを用いた飲料の商品化 ・島根県畜産技術センターの受託研究による「飼料米を活用した「しまね和牛」肥育牛の出荷月齢早期化に係る牛肉品質の評価」 ・島根県、島根県農業技術センターとの共同研究による「つや姫の美味しさに関する研究」 ・安来市と共同による「どじょう」のレシピ開発
<p>地域に根ざし、地域に貢献する大学</p>	<p>◇各キャンパスでのボランティア依頼情報を共有し、学生の活動領域を広げより積極的な活動ができるように、3キャンパス合同の研修会、学生交流会を開催した。（No.42）</p> <p>◇浜田市（2件）、益田市（4件）からの委託を受けて共同研究を実施した。報告会においては、浜田市101名、益田市133名の参加を得た。（No.46-2）</p> <p>◇教員の地域連携活動の推進を目指すため、「しまね地域共育・共創研究助成金」制度を創設した。教員の地域連携活動取組数は、目標400件に対して632件の取組を実施した。</p> <p>◇公開講座において、目標5,000人に対して5,812人の受講者を得た。</p>
<p>北東アジアの知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学</p>	<p>◇島根県の「古事記1300年記念事業」の一環として、「しまね国際学術シンポジウム2013」を開催した。（No.49-4）</p> <p>◇中国東北師範大学東亜文明中心と学術交流に関する協定を締結し、国際シンポジウム「東アジア研究のケーススタディと方法」を開催した。（No.50）</p>

□遅れている点（課題がある点）

項 目	概 要
<p>『北東アジア学創成シリーズ』第2巻 刊行及び3、4巻の執筆着手 (No. 47-2、研究成果の公表と活用)</p>	<p>第2巻は刊行に至らなかったが、全8章のうち最後の2つの章を執筆中。第3、4巻は調査研究を実施し、執筆に着手した。(評点対象外)</p>
<p>図書の学外貸出の20%向上 (No. 59、県民への学習機会の提供)</p>	<p>学外貸出冊数は伸び悩み、昨年度と同水準に留まった。年度末に対応をメディアセンター運営会議で協議し、月末休館日を廃止すること、メディアセンター案内リーフレットやホームページ等の内容を改善することを決定した。(評点対象外)</p>
<p>「海外英語研修Ⅰ」に加えて、25年度から「海外英語研修Ⅱ」(研修先は同じだがⅠより高レベル)を開講することで、海外語学研修への複数回の参加を促進 (No. 61-2、学生の短期海外研修)</p>	<p>「海外英語研修Ⅰ」(秋学期集中:オーストラリアでの短期語学研修)に5名の学生が参加した。「海外英語研修Ⅱ」への参加希望者はいなかった。(評点対象外)</p>